

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900347		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ西船橋		
所在地	千葉県船橋市海神町南1-735-1		
自己評価作成日	令和5年2月2日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い介護(優しい介護・気づく介護・共有)を基本に戻った介護を現場で実施して行く点を23年度の施設スローガンとしてスタッフ一同取り組んでいきます。
新規のお客様も増え優しい介護を継続して実施して行ける施設です。広角レンズで物事を捉えることができるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)新しい管理者の下、職員は自ら考え工夫して介護するために、入居者一人ひとりのちょっとした表情の変化などの気付を大切に共有し「やさしい介護」の実践に取り組んでいる。2)コロナ禍で外出制限や面会制限のある中、入居者に季節の移り変わりを感じて頂けるよう、季節ごとの創作物や塗り絵を展示するなど室内装飾を工夫している。3)毎月送付の生活状況のお知らせに日常の生の様子の写真を多く添えたり、運営推進会議書面でホームの状況を知っていただくよう工夫し、家族から喜ばれている。4)ホーム内30分研修で報告書提出と施設長によるフィードバックを継続して実施し、職員ひとり一人のスキルアップに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザ理念(高齢者の幸せな暮らしに貢献する)基本理念を持って地域に密着した施設である点を意識して行ってます。	良い介護を実施し地域に発信することを目指し、「やさしい介護・情報の共有・積極的な介護」を理念として掲げ、職員が自分で考え、行動し、工夫して入居者一人ひとりに優しく対応し、自立を支援することに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナもあり外部からの訪問が無くなってしまいましたが、保育園との交流は出来ています。	コロナ禍以前には、お遊戯の披露に来てくれていた保育園からDVDを届けていただき、園児のお遊戯などを入居者が喜んで見学している。散歩時におやつを届けるなどの交流が続いている。コロナ禍終息後には近隣小学校との交流、キッズヘルパーなどの職場体験の受け入れや介護相談など地域への貢献などを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページを活用して認知症に対応できる施設として発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議資料を送って現況報告とご利用者様の様子を伝え、また意見書を頂いています。	前回会議議事録と(入居者状況、ヒヤリハット・事故報告、行事報告・予定や前回会議の意見や提案の纏めなどの運営状況を記した)運営推進会議資料に意見記入用紙を添えて送付し2ヶ月に一度書面による運営推進会議を実施している。毎回意見書が返送されてきて活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の利用が増えてきます、また問い合わせもあり生活支援課との関係が構築が出来てる。	地域包括支援センター2か所と市の介護保険課、指導監査課、社会支援課に毎月ミモザ通信を届け、ホームの実情や取り組みをお知らせし協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を実施しているご利用者様が1名います、職員全体で身体拘束の研修も実施し適正委員会も実施しています。	「身体拘束および虐待防止に関する研修」を年2回研修計画に入れ定期的実施している。研修報告書を提出し施設長がコメントを記入し理解向上を図っている。優しい介護を目指し言葉かけには特に気を付けている。緊急やむを得ず就寝時ミン使用の入居者に関しては家族と「緊急やむを得ない身体拘束に関する同意書」を取り交わしている。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し改善方法などを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修として年2回虐待防止に関する研修を実施し虐待が起こらないよう努めています。 2/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人がついているご利用者様が居ますので研修を通じて権利譲渡、プライバシー保護のに関して触れてます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に改定があった場合にはその都度ご家族や関係機関の書面での説明をさせて頂いてます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等の記録をご家族に郵送し返信の意見書を作成し、次回の運営推進会議に反映してます。	身体面、精神面、生活面について居室担当者が記した生活状況表と日頃の様子や行事、レク時の様子の写真をミモザ通信として毎月送付し、入居者の生の様子を伝え、家族と情報を共有し意見や要望を言って頂きやすくしている。書面による運営推進会議案内に意見記入書を同封し意見や要望をいただき次回の運営推進会議議事録に纏めて報告し意見交換を出来るよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や希望に関しては個別にコミュニケーションを取ったり、共有出来る内容は申し送りノートを活用して日々の運営に活かしてます。	開設11年目を迎え、設備、機器の交換など環境整備に関する要望が多く出され設備の修繕や機器の補充など対応している。毎月職場30分研修を計画的に実施し、報告書を提出し施設長が必ずコメントを記入しフォローアップしている。本社のスキルアップ研修(ウェブ)や実技研修など職員育成の研修制度が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にて定期的に公平な評価を行っています。資格や本社開催の研修受講などにも参加も含まれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修においてスキルアップ研修、30分研修を通してスキルアップ出来る環境があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナもありGH連絡会等にも参加できない状態ですが営業活動を通して情報共有しようとしてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者ご本人、ご家族や関係者のかたから希望や要望を聞き関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている問題点をGHで改善出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来る限り支援していきます、また(その時)に必要なサービスがあれば他のサービスを勧めることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする中でご本人とコミュニケーションを通じて信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡は蜜にとり状況を共有してご家族と共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもありますが面会は玄関にて面会して頂いています	コロナ禍のため、面会を制限している。ウェブでの面会や玄関先での面会、家族による近所の散歩の同行などの工夫をしている。電話の取次ぎや手紙の投函や年賀状のやり取り等、馴染の関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや日常会話に於いても複数の利用者様を巻き込んで孤立しない様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了となったご家族でも「困った時は連絡ください」と話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞いて出来るだけ意向に答えています。	「やさしい介護」との理念の下、職員は自ら考え工夫して介護するために、入居者一人ひとりのちょっとした変化や表情など気付いたことを口頭で伝えるか申し送りノートで共有している。特に入浴時や就寝前など入居者と二人きりになる時に昔の思い出話や今の思いなどを聴けることが多く、本人の意向や思いの把握に努め、情報を共有しケアプランに反映させるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族、関係者から話を聞いて情報収集を行い入居後もご本人の生活歴等を把握出来る用努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日の生活ペースを把握し、更にその日の状況変化を見逃さないように観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関してはCM・職員中心にご利用者様の身体状況等を検討しご家族の承認を得て作成しています。	サービス計画書は、入居者・家族の意向を重視し、生活面、食事、衛生面の領域で長期・短期目標を設定している。自立支援を第一に考え、声掛けと見守りにより、できることは自分で行えるように、サービス内容を職員間で検討している。入居者の言葉や行動で気付いたことが記載された「ケース記録」や「申し送りノート」から職員の情報を取り入れ、計画作成担当者が短期目標毎のサービス内容の実施状況・達成度についてモニタリングを実施し見直しにつなげている。	毎月家族に送付している生活状況表を活用し、ケアプランと連動した内容をコメント欄に記入するなど、家族にケアプランを意識してもらうための更なる取り組みも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を整備して気づいた情報等を申し送りノートで共有し、必要に応じて介護計画書の見直しを実施しご家族様への承認も頂き計画作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHIに出来る範囲でお客様のニーズ答えられるよう努めています。(急遽希望する買い物同行)等 5/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でも有り正直地域資源の有効利用は出来てませんが、近隣の保育園との交流は継続板います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科訪問診療と24時間対応の協力病院と連携を取り合い、速やかな受診が出来るよう支援してます。内科の他に精神科、皮膚科、眼科、歯科も行ってます。	協力医療機関の訪問診療医が主治医となっている。月2回内科の訪問診療があり、皮膚科などの専門科も協力医療機関から往診が受けられる。往診状況、医師からの指示や処方薬の変更などの情報は申し送りノートで共有するようにし、24時間対応の協力医療機関との連携も含め、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日の訪問看護にて、ご利用者の些細な変化も相談しアドバイスをもらってます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携して常に情報交換を行ってます。入院時には関係各所にサマリーやアセスメントシート等で情報提供し早期退院出来るよう努めてます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・看取りに関しての指針・内容の説明も実施し、医療機関からの診療方針も説明しご家族からの署名も頂いてます。現状看取り希望のご家族もいます。	入居時に「重度化及び看取り介護における対応指針」を説明し、事業所で出来ること、出来ないことをわかりやすく入居者・家族に説明している。重度化した際には、主治医と家族と相談の後、事業所での看取り介護について改めて説明し同意を得るようにしている。看取りも行っており、看取り介護についての職員研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して緊急時対応は職員共有してますので緊急の対応に関してのスキルはUPしていると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施してます。	災害対策マニュアルに基づき、3月に昼間火災想定での避難訓練を消防立ち合いに下、消火器使用訓練も含め実施し、10月に夜間地震想定で避難訓練を実施している。事前に避難訓練計画書を作成し、職員の役割分担を明記し、入居者も参加の実践的な訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりを尊重し、支援して下さり又施設での30分研修ではプライバシー保護とマナー・接遇の研修も行って頂いています。	やさしい介護を目指し、入居者一人ひとりを尊重し、寄り添い、やさしい言葉かけをし、入居者の言葉一つひとつに耳を傾け、今、何を望んでいるのかを引き出し理解する姿勢を大切にし、安心して毎日を快適に過ごせるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々の利用者様の興味がある音楽や・パズル等を行って頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の意思を確認し入浴やレクへの参加を判断しマイペース優先での生活提案しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては季節の移行もあるのでご本人と衣類の購入も一緒に実施し本人の趣味も活かしながら身だしなみには気を付けて下さり、またヘアカットの他眉剃り、顔剃りも行って頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては本人の好き嫌いやアレルギーを確認し調理に反映しています。配膳・片づけ等も手伝って頂いています。	食事業者を変更し、品数も増え、献立や味付けも改善された。お好みメニューや季節のお楽しみメニューなどバライティーに富み食を楽しむ機会が増えた。下膳や食器拭きなどを手伝う方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録し必要に応じて刻み、ミキサー、トロミ等その方にあった食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに関しては口腔内をチェックして下さり、介助が必要な方はスタッフが手伝って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄・排便サイクルを把握し清潔保持してます。また排泄から見える体調の変化にも留意してます。	トイレでの排泄を第一に考え、定時誘導やそわそわした動きや表情の変化を見つけ、トイレへの誘導を行い、失禁を少なくしている。リハパンから布パンに改善した方もいる。ユニット毎の3か所のトイレには、つかまり易い位置に手すりが設置され、安全に便座に移乗できるように配慮している。排泄時には、羞恥心に配慮しつつ、見守りと声掛け、介助により転倒防止を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルの把握は難しい中注意して把握し便秘が続くようなら医療機関と相談し便秘薬を処方して頂いてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように入浴剤を入れたりご利用者様の好んだ温度設定し入浴して頂いてます、一応AMの入浴を実施してます。	1階はチェア入浴が可能な浴槽となっており、座位が取れば入浴できる環境が整っている。週2回午前中入浴を原則としているが臨機応変に対応している。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れたり、特に温度設定には気を配り、好みの湯温でゆっくり楽しんでいただけるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での生活はご利用者様の判断で自由に利用して頂き、時に居室で自由に横になって休んで頂いてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の情報を載せ、職員が閲覧できるようにしてます、またご利用者様に合わせた薬の形態で服薬して頂いてます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課で体操や音楽鑑賞、卓球とか体を動かすレクを取り入れて楽しんで頂いてます。また掃除や洗濯物をたたんで頂き自立支援してます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍でもありますがご家族との外出は自宅に帰る程度の外出としてます、面会も玄関先としてます。	コロナ禍で外出の機会が少なくなっている。家族とドライブや買い物、散歩に出る方もいる。お正月は自宅で過ごした方もいる。コロナ禍終息後はレクリエーションとしての散歩やドライブを計画している。	下肢の筋力維持と五感刺激を図るために、ケアプランにも組み入れ、施設周辺の短時間での散歩など日常的な外出支援を増やす取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の預かり金に関しては金庫で保管し、嗜好品やお菓子の購入、医療費・理美容代の支払い等に使用しています。2月以降は預り金を無くしGH立て替えキャッシュレス化に取り組みます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙に関しては自由に制限無く対応してあげています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候に合った施設内の温度調整を行って常に不快感が起きないように工夫しています。	温湿度には特に注意し、加湿器を増やして4、50%に湿度を維持するなど、こまめな換気や温度調節を行うようにしている。各フロアーには三人掛けソファが二つずつあり。又フロアーロビーには椅子が設置されており、コロナ禍時は短時間の面会に利用していた。季節感を大切に、環境整備チェックを行い飾りつけや花壇の整備などにも力を入れて取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のテレビやソファベッドは常に解放し共有して楽しめるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活感を維持できるよう家具や調度品の持ち込みして頂き、心地よく暮らせるよう配慮しています。	一人掛けソファ、チェスト、整理ダンスなど使い慣れた家具や電子ピアノ、テレビ、CDラジカセ、写真、フラワーアレンジメントやぬいぐるみなど好みのものを持参している。ADLに応じてベッド用グリップを導入し立ち上がりを楽しんだり、テレビとベッドの配置を工夫して寝ながらテレビを楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせる居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では車いすでの移動できるようになってます、浴室には機械浴を設置、各居室前には表札を付けて分かりやすくしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	緊急時におけるスタッフの対応に関して、判断力と対応に関して自発的に動けない、戸惑いと対応の流れが掌握されていない	突発のお客様の状態の変化への対応ができる緊急時における流れを把握していただき迅速な対応を目標とします	緊急時での対応手順を再度徹底周知、施設長の判断を待つこと無く、医療連携を確りと判断し的確に対応していく。個々判断力を上げる。	2ヶ月
2	18	本人と共に過ごし支えあう関係において、介護従事者主体の介護をしてしまう点が課題です	一日の仕事の流れの中でお客様の要望や意思を尊重しお客様を優先とし中で業務にあたって貰うようにする。決して業務を優先しお客様を置き去りにしない。	スタッフ個々が自分を優先とした考えを無くしお客様と接して頂くことを都度助言していく。意識改革が重要となります。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。